

## 第 2 次地域福祉活動計画の事業評価（まとめ）

## 計画推進の状況及び課題

令和元年度は概ね予定どおり活動計画を進行することができたが、令和 2・3 年はコロナ禍の影響により実施事業の見直しを行った。令和 4 年度社協事業はコロナ以前に戻りつつあるが、地域活動の面ではまだコロナ禍の影響が残っている。

令和 3 年 4 月より地域共生社会推進事業の委託を受け、地域活動計画の一部事業を見直しながら活動計画を進行してきた。地域共生社会推進事業については、重層的支援体制整備事業の実施に伴い、既存の事業の組み換えを行ったことにより、地域福祉活動計画上で数値の目標設定がないが、本会における事業計画上で事業目標を定め実施をしている。

## 地域福祉事業①（フードドライブ事業）

## 1. 事業の評価

- 社協が令和 2 年より実施している生活福祉資金特例貸付の相談対応にて、新型コロナウイルス感染症の影響により、非正規職員、ひとり親世帯、ひとり暮らしの学生など、経済的な問題を抱える世帯が多いことが顕在化した。
- ・令和 2 年度から、共同募金を活用して市内のひとり暮らし学生やひとり親世帯、生活に困っている世帯等に対し、食品や日用品の支援を実施。
- ・支援した学生からのありがとうメッセージを市内の共生ステーションに掲示したところ、困っている学生がいるなら食料の支援をしたいとの市民からの申し出あり。地区社協の会議参加者からの意見により、西共生 S T で市民主導のフードドライブ・パントリーの活動開始
- ・社協、西共生 S T でのフードドライブ活動、食品支援等をきっかけに、南・市が洞共生ステーションでも同様の活動が広がる。
- ・食品支援のニーズの高さが市民に伝わり、また気軽に行える地域活動（もったいないを、誰かのありがとうに変える活動）であることから、市内の高校や企業でもフードドライブの活動が行われるようになる。⇒社協でのフードドライブ常設化へ。

## 2. 現状の課題

- ・今回の市民意識調査の結果でも経済的な不安をかかえる人が増加しているが、相談先として、社会福祉協議会が十分に認知されていない。
- ・フードドライブ事業への市民参加は増加してきているが、パントリー事業への市民参加が低調である。

### 3. 今後について

- ・本事業が、CSW と生活支援サポーターが協働して子育て世帯へ食品を届ける、食品以外にも学用品等の配布を複数の部署が協働して行うなど、社協内外が協働して事業展開をするツールとなっており、継続が必要。
- ・この食品支援の活動により、食品の寄付、配布品を仕分ける、届ける、(寄付)場所を作るなど様々な形で市民参加ができるような事業展開を行う必要がある。
- ・新たにフードドライブ実施を検討する団体・個人への支援を行っていく。

## 地域福祉事業②

(生活福祉資金特例貸付を起点とした困り事を抱えた世帯とのつながり)

### 1. 事業の評価

- ・令和2年3月～令和4年9月まで、新型コロナウイルス感染症の影響により減収した世帯に対して特例貸付を実施。
- ・従来の貸付制度よりも対象要件が広がったことから、今までつながりがなかった困り事を抱えた世帯とのつながりをもつ機会が増えた。
- ・特例貸付借受世帯やひとり親世帯等とゆるやかで継続的なつながりができるよう、LINEを活用した情報発信(食品や日用品の提供、生活支援の情報提供、相談窓口の情報)を開始。

### 2. 現状の課題

新型コロナウイルスによる影響だけでなく、原料高騰による物価上昇の影響などにより生活再建が行えない世帯からの相談件数が増加している。

### 3. 今後について

特例貸付の借受者に対しては、償還に向けた事務に留まらず、生活再建のためのフォローアップ支援を行う必要がある。支援については、借受者の状況に応じて、貸付担当だけでなく、生活困窮やCSW、障がい、高齢担当、社協全部署での支援を行っていく。

## ボランティア養成事業

### 1. 事業の評価

コロナ禍で社協が手作りマスク事業を立ち上げ市民や個人ボランティアが生地を寄付し手作りマスクを制作して必要とする先に届けるなどボランティア活動の創出ができた。

## 2. 現状の課題

コロナ禍の収束傾向に伴い、再開している活動もあるが、高齢者施設等で活動している芸術・文化的ボランティア団体は未だに活動場所がなく、意欲の低下や活動の継続ができないことから休止・解散するところが出ている。

## 3. 今後について

芸術・文化的ボランティア活動を行う団体は所属する人の多くが高齢者で生きがい活動の場所になっていることから、活動場所の発掘や新しい活動の形でのマッチングなどが必要である。

### 福祉団体事務

## 1. 事業の評価

子ども、身体に病気のある人、高齢者などコロナ感染拡大の影響が大きい団体の活動は自粛する状態になった。

## 2. 現状の課題

コロナ禍で活動休止状態から再開ができない会やクラブがあり活動が十分に実施されないだけでなく後継者不足も加わり活動の引継ぎができないことから活動の減少、会の休止、組織の脆弱化が発生している。

## 3. 今後について

コロナ禍で失われた組織内のつながりを再構築するために会の独立性に留意しながら従来よりも踏み込んでサポートをしていく必要がある。

### アウトリーチ等継続的支援事業

## 1. 事業の評価

アウトリーチ等継続的支援事業では、従来の地区社協、福祉のなんでも相談に加えて、今年度、新たに「8050世帯の調査」の実施と「若者支援の在り方」について検討を行った。

## 2. 現状の評価

8050世帯の調査にあたっては、まず、80代の親世代へのアプローチを開始したが、50代の子に関する情報取得の難しさを感じている。また現状、具体的な支援策がなく、今後どのように関わりを持っていくか、検討していく必要あり。

### 3. 今後について

8050世帯への継続的に関わる仕組みづくりの検討や、若者の居場所づくり等新たな支援策の検討を市と協議していく必要あり。

#### 共助の基盤づくり事業

##### 1. 事業の評価

生活支援サポーター（有償ボランティア）による、経済的に困っている子育て世帯に対する「ながくておすそわけ宅配便」（食糧支援）を実施。宅配を生活支援サポーターに依頼することで、生活支援サポーターの役割の創出とともに、困っている子育て世帯への地域資源のマッチングを行い、より身近に相談できる環境の整備を開始した。

##### 2. 現状の課題

生活支援サポーターなど、地域の担い手となる人材の把握や育成が課題である。また、生活支援サポーターと、社協ボランティアセンターに登録している個人ボランティアとの役割の違いを明確にすることができていない。

また、地域の避難行動要支援者に対して、災害時のみならず平常時から、地域において見守りができる体制づくりが課題。

### 3. 今後について

生活支援サポーターの養成と同時に、サポーターの特性を把握し、地域のこまりごとや、避難行動要支援者の見守り等にマッチングできるような仕掛けづくりを検討する。

また、避難行動要支援者に対する平常時からの見守りのネットワークづくりについては、関係機関等と協働していく必要があることから、行政・地域とともに協議をすすめていく。

#### 生活支援体制整備事業

##### 1. 事業の評価

令和4年度は地域住民を集いの場として住民自らが運営するサロン、CSWが運営する居場所を開設し、市内に新たに2か所開設。

また、地域づくりに貢献したいと考えている企業と連携した集いの場「みんコラ」事業を実施した。

##### 2. 現状の課題

サロン運営も10年が経過し、代表者の高齢化が進んでいる。しかし、新たな参

加者も少なく、後継者問題が発生してきた。後継者が見つからず、閉鎖するサロンも少なからずある。

### 3. 今後について

CSW による定期訪問の継続やサロン運営継続に向けた支援を行う。

## 参加支援事業

### 1. 事業の評価

ひきこもりをはじめとする社会参加が難しい方に対する相談や、社会参加のきっかけづくりとする N-ジョイ（居場所兼相談窓口）を運営。

### 2. 現状の課題

N-ジョイの運営をしているが、参加者の多くは、第2・第3の居場所として活用されており、本来期待していた、社会参加のための居場所にはなり得ていない。支援メニューや社会資源（就労をはじめとする）とのつながりは乏しい。

### 3. 今後について

8050世代への調査で関わった50代の子の相談窓口や、社会参加のきっかけとなるように支援メニューの検討や、広域での社会資源の活用も検討していく。また、中間的就労（仕事について考える、体験する）などの仕組みづくりのために、企業等多様な機関との連携の検討。